



「第九」日本人初演
100周年記念事業

公開講演会（全6回）

「歓喜の歌」あるいは「第九」として日本人に広く親しまれているベートーヴェン作曲の交響曲第9番は、1824年にウィーンで初めて演奏され、その100年後の1924年1月26日に九州帝国大学フィルハーモニー会（現、九大フィル）が昭和天皇の御成婚を祝って有名な第4楽章を日本人で初めて演奏しました。今年2024年は「第九」初演から200年、日本人初演から100年にあたります。九州大学ではこれを記念して文化芸術に関する6回の公開講演会を開催いたします。

会場のお席には限りがございます。遠方の方はオンライン聴講も可能です。参加・聴講をご希望の方は事前に各回の申し込み窓口よりお申し込みください。多くの方のご参加をお待ちしております。



「第九」日本人初演
100周年記念事業



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

第1回 松村晶ほか

「キックオフ講演会～九州大学の社会文化活動」

於：九州大学医学部百年講堂



松村晶
(九大名誉教授・久留米高専校長)

「第九」日本人初演100周年を記念した企画シリーズの初回として、松村晶（九大名誉教授）が「九州大学と「第九」」と題した講演で両者の関わりを紹介し、その後に本記念事業の企画に携わっている岡崎敦（九大名誉教授）、藤岡健太郎、赤司友徳（大学文書館）、三島美佐子（総合研究博物館）、梅大也（芸術工学府大学院生）、十島慎太郎（九大フィル学生）の6名を交えたパネルディスカッションにより、九州大学が地域社会に果たしてきた文化活動や記念事業への期待を明らかにする。



要事前申込：<https://forms.office.com/r/VW8gGe19AE>

2024 3/20 14:00
水・祝 16:00

第2回 渡辺裕

「九大フィルの《第九》上演と「替え歌文化」
～明治大正期日本のもうひとつの西洋文化受容～」

於：九州大学医学部百年講堂



渡辺裕（東京大学名誉教授）

1924（大正13）年に行われた九大フィルによる「第九」上演は、日本人による「第九」演奏の嚆矢とされつつも、第4楽章だけが「皇太子殿下御成婚奉祝歌」という形で上演されたことから、その価値を割り引いて評価されるきらいがあった。しかし本当にそう考えて良いのだろうか。この講演では、背景にあった当時の日本の音楽文化の状況や西洋文化との付き合い方を見直してみることで、そこにあった別の意味や価値を探り出すことを試みる。



要事前申込：<https://forms.office.com/r/BDUBfgyM8Q>

2024 4/21 14:00
日 15:30

第3回 片山杜秀

「大学オーケストラと近代日本」

於：九州大学医学部百年講堂



片山杜秀（慶応義塾大学教授）

クラシック音楽の歴史はプロフェッショナルな作曲家や演奏家の系譜で辿られがちである。だが、近代日本におけるクラシック音楽文化の発展となると、それではうまく語れまい。日本人のプロの作曲家や演奏家が音楽を広めて行くよりも、アマチュアがレコードを聴き、楽譜を読み、楽器を習って、余暇に演奏活動することの方が、歴史全体から見て、発展に寄与するところがあるのではないか。大正から昭和初期にかけては恐らくかなりそうであった。そうした角度から大学オーケストラの歴史的な役割と意義に触れたい。



要事前申込：<https://forms.office.com/r/4qEKX1XcZ3>

2024 5/19 14:00
日 15:30

第4回～第6回 （裏面に記載）

第4回 神谷優子

福岡における久保猪之吉の文化活動
～「エニグマ」を中心として

第5回 鈴木優人

指揮者から見たベートーヴェンの
『第九』

第6回 豊田泰久

響け！オーケストラ～オーケストラ
を輝かせるコンサートホールの音響
設計

第4回 神谷優子

「福岡における久保猪之吉の文化活動」
～「エニグマ」を中心として～

於：九州大学西新プラザ大会議室



京都帝国大学福岡医科大学の耳鼻咽喉科教授として来福した久保猪之吉は、医療活動への貢献とともに、この地に大きな文化的潮流を起こした。その一つに、福岡初の文芸雑誌となる「エニグマ」の創刊があげられる。この「エニグマ」を中心に、福岡における久保猪之吉の文化活動について話す。

神谷優子
(福岡市総合図書館 文学・映像課
(福岡市文学館) 特別資料専門員)

要事前申込：https://forms.office.com/r/X8K43sfgM5

2024 7/14 日 14:00 ~ 15:30



第5回 鈴木優人

「指揮者から見たベートーヴェンの『第九』」

於：九州大学伊都キャンパス人文系大講義室



ベートーヴェンの交響曲第9番「合唱つき」は規模といい内容といいその当時の交響曲の常識を遥かに超えた革新的な作品であり、200年経った現代でも演奏する者にとって多くの課題がある。9月16日の特別演奏会を直前にして、指揮者の目から見た演奏上の課題や思いをこの曲の内容とともに楽しく紹介したい。加えて100年前に榑保三郎教授が企てた替え歌での演奏についても演奏者の視点で解説する。特別演奏会がさらに楽しくなる話題でいっぱい。

鈴木優人
(指揮者・鍵盤奏者・九大客員教授)

要事前申込：https://forms.office.com/r/sRfpxJQnDc

2024 9/14 土 14:00 ~ 15:30



第6回 豊田泰久

「響け！オーケストラ～オーケストラを
輝かせるコンサートホールの音響設計」

於：九州大学医学部百年講堂



講演者はこれまで世界中の多くのコンサートホールの音響設計に関わってきた。演奏者が奏でる音楽表現が聴衆によりよく伝わるには、客席だけでなくステージ上の音響も課題になる。このとき九州芸術工科大学（現・九州大学芸術工学部）在学中に参加していたオーケストラの演奏経験は大きくものを言う。本講演ではオーケストラ奏者の観点も交えてコンサートホールの音響設計について楽しく語りたい。

豊田泰久（音響設計家）

要事前申込：https://forms.office.com/r/7caRhN0mMU

2024 10/6 日 14:00 ~ 15:30



各会場アクセスマップ (以下 QR コードより)

九州大学医学部百年講堂



九州大学西新プラザ
大会議室



九州大学伊都キャンパス
イーストゾーン
大講義室 II
(キャンパスマップ 84 番)



演奏会情報

「第九」日本人初演百周年記念特別演奏会

日時：2024 年 9 月 16 日（月・祝）14:00 開演

場所：アクロス福岡シンフォニーホール

プログラム

第1部 100年前の「摂政宮殿下御成婚奉祝音楽会」再演
メンデルスゾーン：結婚行進曲
新編奉祝歌（「第九」第4楽章の一部替歌）

第2部 「第九」の全曲演奏
ベートーヴェン：交響曲第9番ニ短調「合唱つき」

指揮：鈴木優人

独唱：澤江衣里、布施奈緒子、山本耕平、加藤宏隆

演奏：九大フィルハーモニー・オーケストラ ほか

